

ネパール・タバン村でへき地医療に取り組む 石田龍吉医師一時帰国報告会



10/10
(土)
@ 京都

参加無料
申込不要
どなたでも参加
いただけます！

時間：13:30～15:30

**会場：京都大学稲盛財団記念館
3階会議室**

京都市左京区吉田下阿達町 46
・京阪本線「神宮丸太町」より北に徒歩 3 分
・市バス「荒神口」より東に徒歩 5 分
・京都バス「荒神橋」より南に徒歩 1 分

主催：京都大学環ヒマラヤ総合研究ユニット
環インド洋地域研究プロジェクト
京都大学拠点 (KINDOWS)

共催：ネパール学術ネットワーク (NAN)
問：kINDOWS@asafas.kyoto-u.ac.jp

ネパールへき地医療 60 年から学び、 新時代の医療協力へ

ネパール国ロールパ郡タバン村(首都カトマンズから西に320 km、標高 2000m)にて医療協力を始めて 18 年。へき地平等医療に取り組む石田医師の一時帰国報告会を開催します。村に小さな診療所を立ち上げ、知人友人からの器具、薬剤等の支援に助けられながら患者と向き合い無我夢中で医療活動に取り組んできた石田医師の活動は村の人たちの信頼を集め、2025 年 4 月には永年の村民の行政交渉の努力が実り、ネパールの山間医療を変革するようなモデル病院が誕生しました。石田医師はこの病院をへき地医療の未来を担う人材育成をめざす“村の医科大学”にと将来を描いています。

そうした中、去る8月26日にラスワ郡で土石流災害が発生。多くの命が奪われ、未だ被害の全容は明らかではありません。「ラスワ土石流の2週間前にはタバン周辺に集中豪雨があり、南隣のウワ村で土石流が発生して13人が亡くなり、ロールパ郡全体では22人が亡くなりました。ヒマラヤ山脈の厳しい自然環境の中では地球温暖化の被害も激しいものになると感じています。隣村で13人が亡くなった集中豪雨の時には谷川を流れる濁流の音がまるで山がうなり声をあげているように響き渡り恐怖を感じました」と、石田医師から報告が届きました。

医師の村での歩みは、医学生時代に岩村昇先生とともにネパールの田舎を歩いた記憶と足跡をたどりつつ始まり、その教訓を発展させる年月でした。へき地医療を学び、ともに未来を担ってみたいと考える若き医療関係者はもちろん、幅広い領域の方々のご参加をお待ちしています。

10/4
(日)
@ 神戸

時間 14:00～16:00
**会場 こうべまちづくり会館
6階 会議室 (定員 40)**

神戸市中央区元町通 4-2-14
・みなと元町駅(海岸線)西1出口北へ徒歩2分
・花隈駅(神戸高速)東口南へ徒歩3分

主催：石田先生のネパールへき地医療を支える会
お問い合わせ：hasnumoon@gmail.com ※残席ご確認ください

10/24
(土)
@ 高槻

**時間 14:50～16:00
16:10～17:10 (総会)**
**会場：クロスパル高槻
402 会議室 (定員 40)**

JR 高槻駅 [南口] 徒歩 1 分

主催：ジャルジャラ サポート事務局 ※下記までご予約ください。
お問い合わせ：jyarujiyaraosaka@gmail.com